

オニヤンマと遊ぼう

芳我めぐみ（千葉市）

日 時：2011年9月4日(日)10:30~12:00

天 候：晴

参加者：27名（大人16名 子ども11名）

担当指導員：赤木光明・芳我めぐみ



台風12号の影響で前回に続き雨天中止になるかと心配したが、気温29℃、湿度60%晴れの観察会日和となった。10時前には駐車場の広場に子供たちが捕虫網を持って「捕る気満々」の様子で開始時間を待っている。既にショウリョウバッタ、オンブバッタ、カマキリ・・・を籠に入れておける子もいる。

10:30 観察会開始。初めての参加者は3家族。千葉市のHPで「オニヤンマ」の字を見つけ参加してくれたようだ。オニヤンマを捕ったことがある人ゼロ、トンボを捕まえて遊んだ人も少ないようだ。いきものの里の紹介、注意事項（特にスズメバチの対処法、生き物の持ち込み持ち出し禁止）を話して早速オニヤンマのいる谷津田へと向う。いつもなら杉林で引っかかってしまうが、今日ばかりはトンボの生息地、谷津田へと一直線。

谷津田に到着したところで参加者に本日のルールを話す。〈採集は赤い目印の棒の範囲とすること。最初にトンボをとったらみんな一度集まること。トンボの羽根を傷めぬよう籠の中に入れて担当者のところに持ってくること。そして最初に捕まえたなら全員一度集まること〉などを話して採集開始。5分後シオカラトンボの♂が採集第一号となり、全員で観察する。羽根を傷めぬよう持ち方を指導する。複眼の形と位置、羽根の形や模様、雌雄の見分け方などを説明する。捕まえたトンボは採集者の名前、トンボの種名、体長などを記録し、記録の終わったものは羽根に番号を書き放した。オニヤンマ第1号を採集したら再度集まることにして又解散。ほどなくして「オニヤンマつかまえた！」の声で皆集合。エメラルドグリーンの複眼、力強い体に歓声があがる。もう一声盛り上げようと「鬼のパンツ」の歌詞カードを配り合唱。俄然オニヤンマ捕獲に燃えて散っていく。

次々採集したトンボを持ってくるので記録するのに忙しい。全家族がオニヤンマ捕獲に成功し大満足していた。約30分の採集時間終了後前日水路で捕獲した「ヤゴ」（2年もの、3年もの4匹）を見せる。「なんで今ヤゴがいるの？」びっくりした声があがる。トンボの種類によって生活サイクルが違うこと、オニヤンマのヤゴは水中生活3~5年送り、成虫になることを説明。ヤゴがいることから谷津田の生活環境が良好であることがわかる。オニヤンマの住む周りの環境を観察する。流れの緩やかな土水路や農薬を使用していない田んぼは虫の発生も多くオニヤンマにとっても貴重な生育場所だ。初めてノシメトンボを自分で捕まえた男の子はお兄ちゃんが捕まえたオニヤンマに憧れて「来年はぼくもオニヤンマとりたい！」来年も再来年もトンボ捕りのできる環境は人の手で管理することにより保たれることを今回も話す。

駐車場へ戻り記録したトンボを表にまとめて発表する。ダブって捕獲したものなし。オニヤンマ6、オオシオカラトンボ1、シオカラトンボ6、ノシメトンボ2、アキアカネ1、オオアオイトトンボ1の6種17匹だった。トンボ捕りのつもりの参加者がトンボ調査の参加者となったことで意識が少し変わってくれたように思う。あれほど虫籠から放すのを嫌がっていた子どもが、つかまえたトンボを躊躇なく放していたのが嬉しかった。

観察会の最中数回、スズメバチが参加者の周りを巡回していた。参加者が教えを守って騒がず動かないでくれたお蔭で事故にならずホッとした。最後に大草観察会に携わっている指導員4名が参加してくれて見守り、トンボの同定など手伝ってくれたことに感謝。